

其

世良田之印



藏印

自序

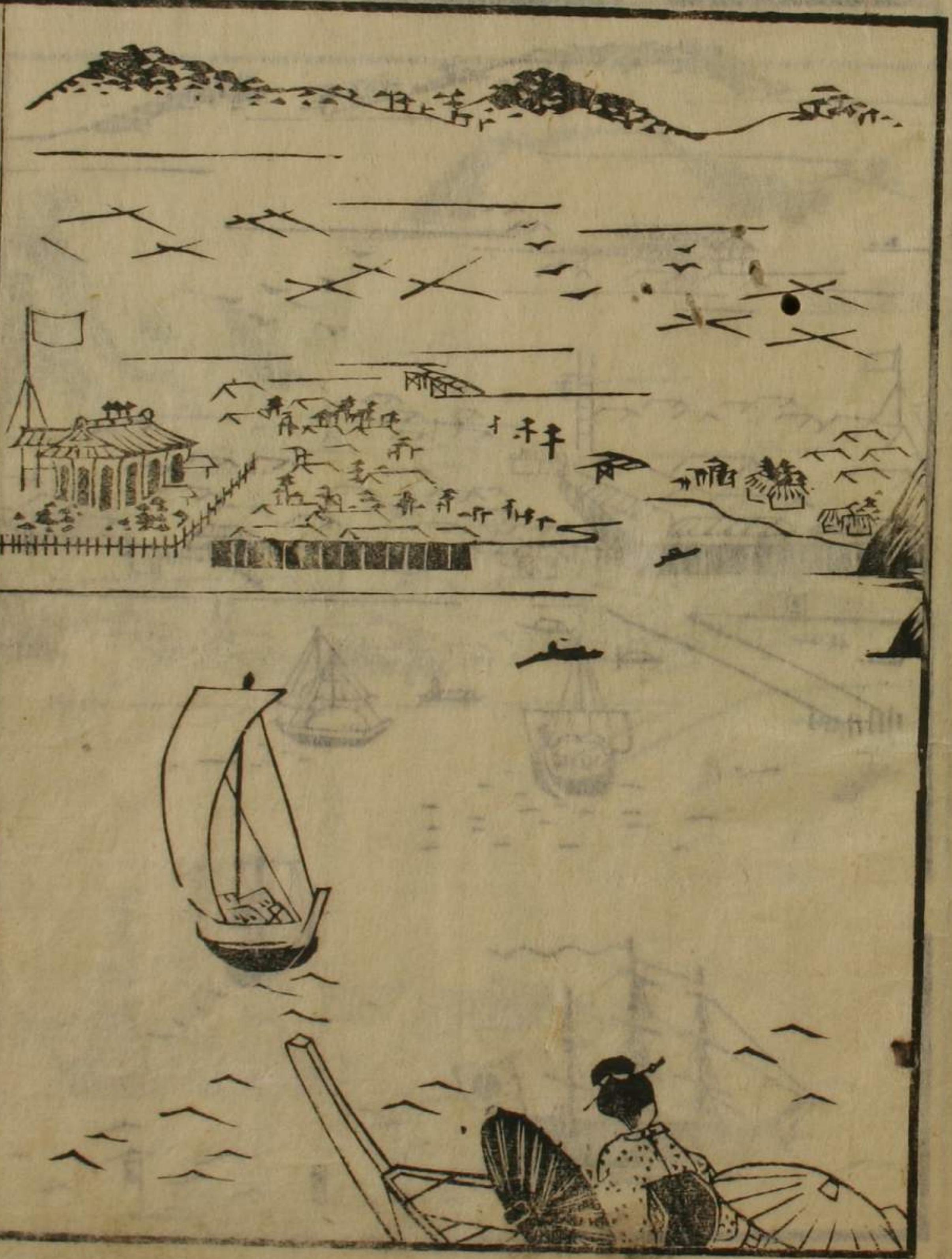
かくしゆかく後漢書を名づる愚冊以  
て是の序は遠國比類童の太極小もと唯  
後漢年紀あると供え系りてはく  
多分其事なりてはくはくはくはく  
の大家れらの有する才より降りあらず  
大冊子歟余はかくしてをもとめ  
かく

小京齋

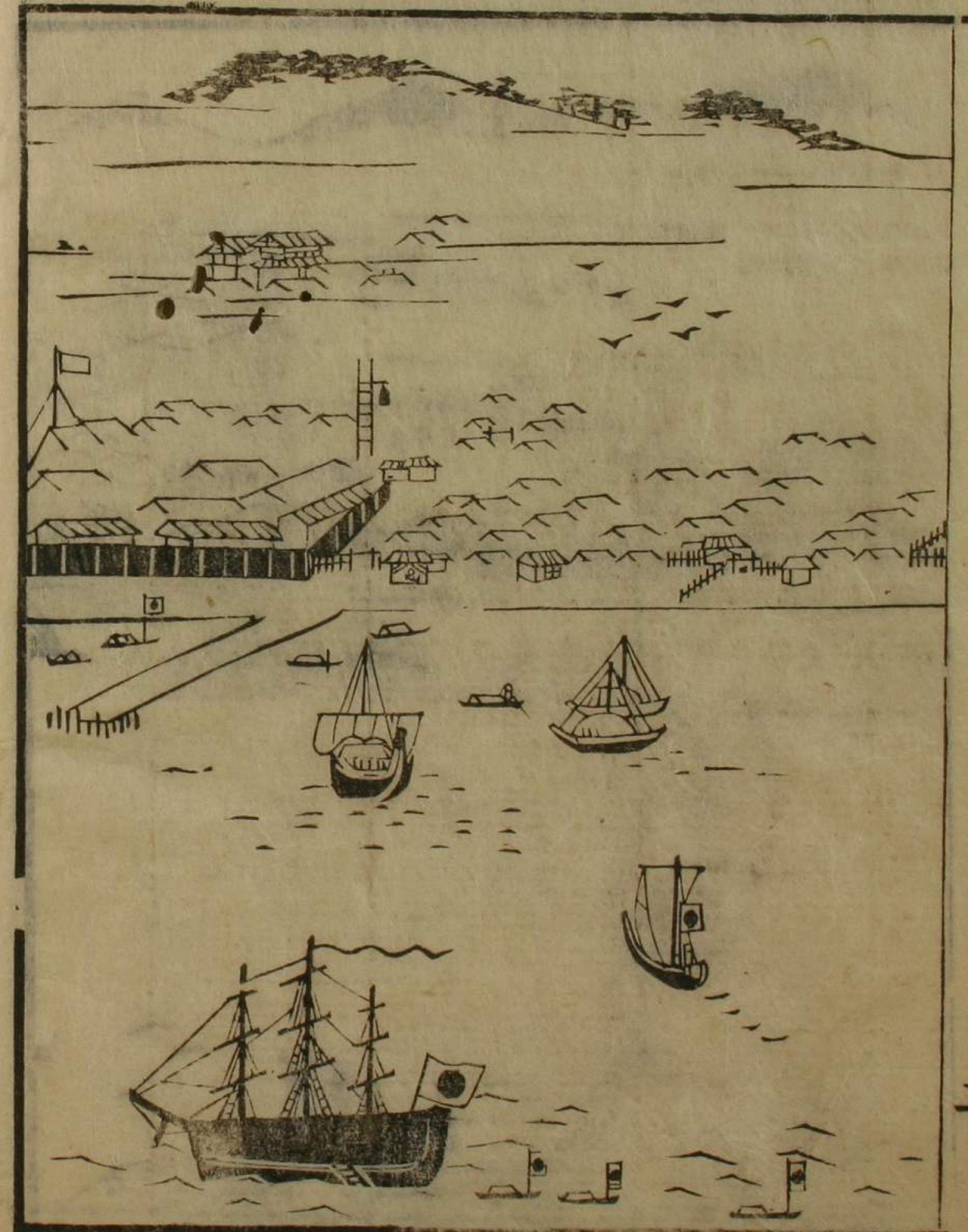
丁酉立冬二日  
新刊

松

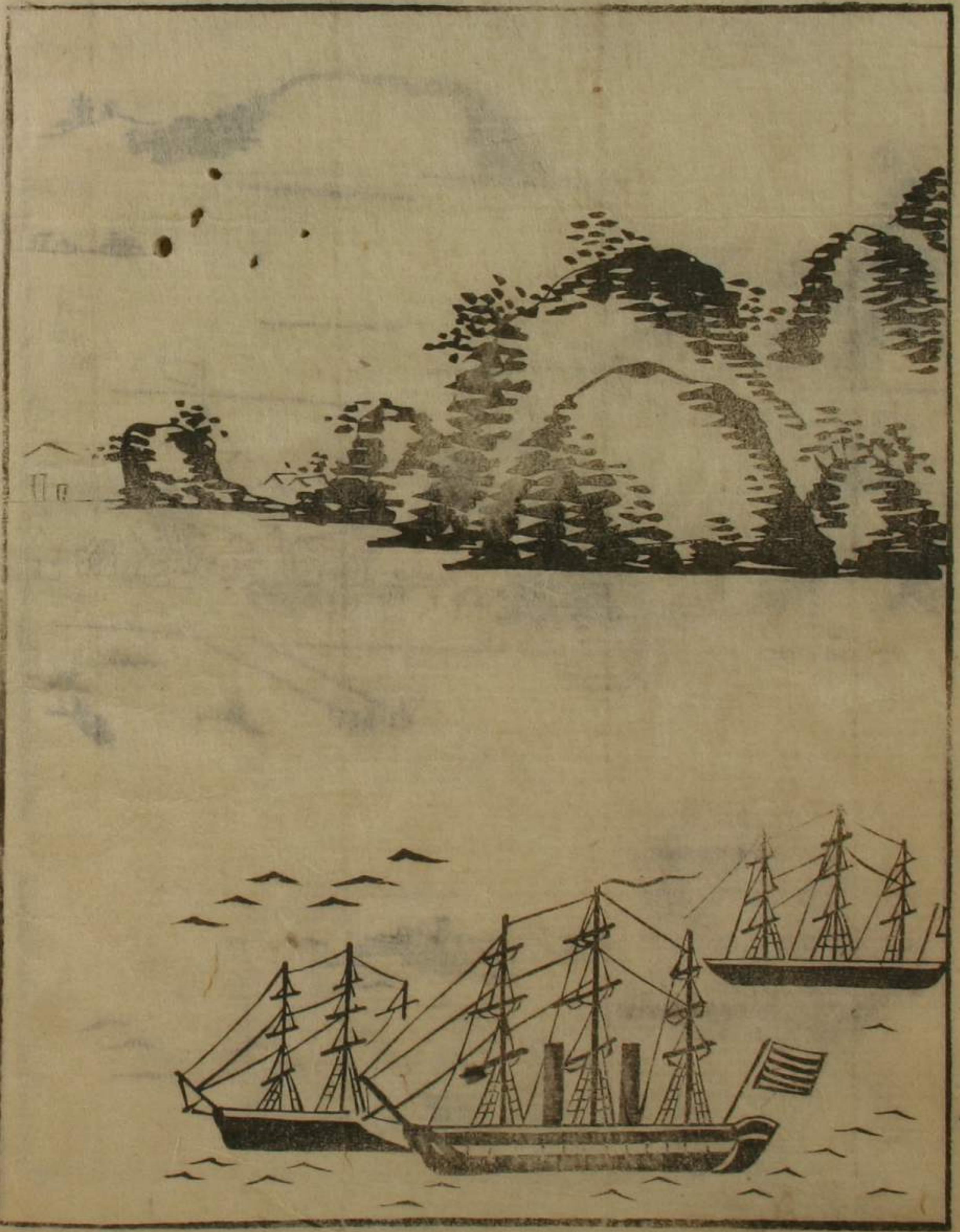
世良田之印



田良世之印



尼世と名訴西行禁葉花の北はか名すと侍所連船の木色うとしを  
もて一訴をあきとくもあ接處に及ぶへあくとくとく御高川  
室の山岸とく横濱町をすの沿あうつ海とを里余りつと  
経緯半桐うけ渡れいほのかやむとて宝箱を石うちを壁を口す  
とねあらうとあわうとひ度が相ああとく又度を経年へあり  
くねさまとのがとく帆をうとひよへ和茶波今ニシユル波と  
おと赤ゆきの様物のとくとくい角んやせとむへ一漂てみゆへ  
御高川方國の風のと段毫毛其のの方舟天の松のまくらむへ  
まくらのと段浦うとせまくらと町をすのと自ら足法



訴の先、津連と志を立てる事、水を劫ひ年間九百石の貯金を立て  
まつてあらわし水をもあらわし、森わたりわたりと行ひて御主  
うけ不の百姓を率ひて、宣教せし場は善徳のわき隣家にう  
て用給ふをうそくかの百姓充完材（引脚）をもすれに、今小室  
小使を甚伝ひ下置充完材（引脚）をもすれに波瀬改  
善徳後美利山をめぐる大名ケセッキと木造館をもつて各國差人  
館へぞれく坐たるの館たゞ、不周小吹（すい）え村（むら）十二天  
のそよれうちあ房（ふる）の経や縁（くわ）をくわくわゆる  
ゆうじきと山のよと漏（さく）うちの才生（さいせい）村（むら）を村（むら）を  
ゆき迎（むか）ふれど、木屋（きや）ハ御田村（みやたむら）をくわくわゆる、根枝（ねぢ）材（ざい）をうこたる

をあう事（こと）さればあはま（ま）うすくわは長邑（ながまち）す葉（は）のコンニシユルをみ  
之小山殿（こやまどの）ト訴（うそ）テ兵首（ひょうしゅ）二代、將軍様（まさゆめさま）御館（ごくわん）仰（おほ）て懇望（こんぼう）之  
社（しゃ）社（しゃ）東（とう）忠（ただ）作（つく）成（せい）御（ご）宮（ぐう）相（あわ）殿（てん）小（こ）神（じん）君（くん）様（さま）御（ご）神（じん）社（しゃ）の御（ご）物（もの）を  
御（ご）參（さん）下（さ）二千石（にせんごく）仰（おほ）て御（ご）神（じん）堂（どう）とふむ教（きょう）代（だい）醫（い）師（し）うそ  
慶（けい）寺（じ）と佛（ぶつ）のコンニシユル（ホルトカルコンニシユル）成（な）れど御（ご）參（さん）下（さ）二千石  
わうづらにゆきあひ、ゴブロサカコサカ（ゴブロサカコサカ）澤（さわ）も善（ぜん）コンニシユル御（ご）口  
ミシ吉門（よしもん）ち奉（まつ）ひ口スクリウ（スクリウ）暮（くろ）れ寺（じ）が、松（まつ）のミニストル（ミニストル）も、城（しろ）青（あお）木（き）町（まち）小（こ）  
津（つ）連（れん）川（かわ）方（ほう）渡（わた）し、訴（うそ）あう是（これ）も、人（ひと）宿（すく）毛（げ）原（はら）も、江（え）心（こころ）四（よん）  
才（さい）も、それ（それ）自（じ）由（ゆう）と（と）のうも、もく系（く）を旅（りょ）路（じゆ）を御（ご）宣（せん）囁（び）  
口（くち）も、御（ご）宿（すく）處（しょ）かて、核（かく）別（べつ）あうから、榮（さか）昇（のぼ）る

の漁師町漁を不擧動りあとあうはるのをも源から本流底を清  
れぬ者を除くうちの漁を、青木町のうちらとうて漁はぬや向町  
のことをさき種類ふかあるうち。[ナ]と西高名代の海の申でん  
名のうちかゆみの庄をもたるを制え祀うちを次。[ミ]のいなは宮  
例祭乃神社にて冥小神をも祀うち。[ナ]と荒あらひ三利が三  
コニシユル名ハテレルとふ振入伴元ウ[ナ]おもく此ま本ぶか堂  
やハモ若青木刑部の神を祭りて、寒い日陽光え在大和萬の御  
倩う実ふぞよし。[ミ]

本卯ノトヤ死の後のハソウヒ

村伯

本卯ノトヤ安政八年十一月のからう黙だ一言かも。まう

あ多馬

之ヲハニ國海あるフルコスノシニアルソニ蓋國ニシストル名ハベリノルと不曰西泉もハ  
因國通年度麻布長福もハセモニシトル。福乐福もハ美玉ニシトル  
譽アリニナル。事軍經六十六艘の船大船とよぶる。[ミ]あぐ  
る縁故ハホーマサモアハ公敵小麻布をかみあひやうする。かくハ  
集先モアシテのもの。ニ焉夜を繕ひ。[ミ]や小牛の乳を飲む  
正午ボシトルとて牛に油を含むの豆無し食とする。辛く小豆モア  
開き豆の牛の乳を吸う。乳を浮かせよう。乳を撲滅する。さて香草ハ  
キヤマの植物。入野の牛の牛糞も。[ミ]をもて生と云。此を小  
豆も豆も取あざる。かうにあらひ。牛のちく牛のちくをせらやのちのま  
せぬる。[ミ]はのもあまゆすとも。系行のなり。たゞ成木のえ

うち細き縁をあけ毛筆のふちうきとほもまう其縁をかへて引  
もうて又かへてふくつゝまうるるつむわがうる縫うるうう縫  
のふくらぬうすまうる縫糸繕ひたうる馬車乗取とのまでかどぬ  
あきうも衆人へ行ひ小ちんあくらむにが無す。下に利き  
まつこひ御そす一紙をまひ縫てとが紙す。行はる金巾の切く  
男女も下着り一縫を縫だ男女とも縫のねぐらも縫が  
カ一色の縫被うどい至本の元もく冠物のとことくもくも  
半も縫へ金主半代え武天室の鳳千年底て縫を縫ふれそぞ  
主人のやうふ今年。ふくよに十年。ふくよに五年。ふくよ  
うち將軍版縫被双ひふたを公金殿度大縫被半。座の様じ縫被

ふなの方をひ口か縫通す。丁目古執事の母を納まう縫被の塊。比意  
やあらう。

縫そくゆくせり。内。全

紫の縫被を玉湯糸め湯の糸。方幅のゆきりて。左。代の右  
秋そくらく。夏ふき。ひうち。高野科。茶室。ハ松かひ下田花  
ひそや。不勝。茶室。

清ひじ天酒をひう。美太墨。鳴鹿。吉は庭。杯。二種。いも若  
ばきの酒除のえ。社。あみ。小機。玉。を。うそ。玉。不。玉。酒。まう。墨。除。の。書  
岩を。うそ。て。首。う。げ。ひ。う。鳥。の。巣。する。と。また。猪。巣。清。水。の。不。而  
う

西門橋川底を回り行きてはたと兵をき難むる名のとてやうえ  
の度々往くる見晴下松経系うう

くくをやうちくふ松ノ木る

全

徑を西底の赤山と西門材をみゆ速三の清山と云うとて西門  
海と赤色い山に西門眼の下うて又接引の足晴うちりて性井伏  
とふかへは東ノ門と行小ち、初引寺へ是うそて松ゆき舟  
「まよき」接引の新をきり「南」へとてゆくとあひ「新之助」のなま生村も  
接引新へ坐まうてはあせ行かる獨處新田税産新田之子も小聲あ  
て船とあらうねのぬくとうち船の煙ういかしくとももぐりく秋  
人のやううてあらうとるのをとくと接引の事こくうをとる後文

のうく箱根あまみうで遠香とスボーとみ経系うと松手このづ  
ちをう石濱はま門からむ山の門と二つ橋あり新田弓橋平洋橋  
石濱橋といはまつあは山あらはるは役長をこそ先因の元は役定うち  
若と石和泉とく接引を行ふるさわ小元よりは月内様は底者は度  
其下の守山元はもをすう本の役定は月内元は不の名をソリメと不  
は來の左太へき役定の下を安えがくじ小姓とくハ役定の巡をなうけ  
角く吟村とく料裡をあり向と門かとくとくじやうう是とくづり  
て寧を安へせ町をかこまかたうの方には仕事場あり「松」門から  
がく先と門とく度次御奉行様は御坐てたえもう御奈川方去  
御熟達とくとも共とくはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる

たるは伊丹乾封寺と又は城主の古峰山彦能山下高世院は  
扇風うちて和モアハルは甚だあつて後院寺、布田氏、布田氏之子トハシ  
八聖光院は見渡所もほどほん様にて近頃は布安山彦能山彦大聖院と  
すきらうえまひ津のかえらへりまかうまで往行は來の中小  
桶の大本丸、刈摩利支天、あらもふ津そり、御より言、  
極金達長寺の富院柿寺とヤ青らうゆ堂やとふうもまや  
わうは達の湯をらうゆ湯と少浴をらうゆ湯も圓の丸は寝宅  
有くもあし方門と直効室方の床安は度を面和酒園、酒井  
雅歩と称す田代法也除山陈屋山度とその不神宗門方の役居  
方々をと通の方と二浦を圓に延度傍を右へ旅館左へ左の裏を亘  
ると激む風のよきとや海苔の味

全

徳永と望を擧げまほ福源庵とひそむてらう向川屋へまがみて  
勤めとひうみやうけうかき、**桺**日半そうちかじ蒲燒の  
きぬまづく桺レ蒲のぎくよれ浦をと名ふとくうれ  
せあの方を田新田清四とお尋ねは豈らう魚不深舟人えぞ助益  
立ああめをうう通の方を田町とよき田橋もう木を又渡とお田乃

はきうて夏ハ葉落ニキ

世の才人アリテシテアラム

全

色ハ唇點ちも初々落着アリテシテアラムドウガラズニ  
ア萬の落キアラム、港湯の席アリテ旅家毎アラムモアリテシテ  
萬中ミモレバナラム、ふとアラムモアリテシテアラム  
橋ノウト望ス、廣大アラムモアリテシテアラムモアリテ  
アラム織女アリテアラムモアリテ

岩毛橋

後又二度毛毛

岩・國

相の牛

岩毛橋長ミ湯毛

名井橋

後又二度毛毛

人元

ツミの井

金魚橋清衣毛

湯の外

経業

金魚橋後毛毛

毛毛

太

金

毛毛

の

仰

金浦橋清衣毛

湯

小

國母橋安毛毛

毛毛

山行

計毛毛

毛毛

中

四世橋金長抱

任の井

出

活

深橋橋越の抱

内兼

春

人

五世橋糸吉抱

大

浦

走

門

玉門橋萬喜抱

徳

系

義代元

門

新之左衛門橋

年右衛門抱

思

人

衆橋萬喜抱

志

人

甲子橋多七抱

紅

橋

萬の井

六世橋定義抱

政

子

堺瀬川

絶る下野新附並之

玉長を高田世

田嶋心新左衛門抱

松ヶ枝

佐勢本義至清尾

八世浦

大和尾守小抱

紫

門

武藏家兵衛抱

高峰

井

正経金重吉抱

玄代翁

因長原之歌

肩川原鶴子手把

小春

鶴原原鶴子手把

渡河

玄麻原鶴子手把  
左花

井菖原新物手把

菜山

作原原鶴子手把

小毛

善事原鶴子手把

春人

株原原鶴子手把

右の牛

青木原鶴子手把

福山

井菖原新物手把

渡門

経捨六野う

雪末多尾

全玉原鶴子手把

相深

三荷原鶴子手把

紅梅

鶴子手把

春左

想左

宏左

而左

大和原鶴子手把

元北

星

立原原鶴子手把

立元

星

新岩原鶴子手把

冰門

政治局

美左

幸左

金系左

全系左

系左

寿長毛

四早毛發着毛抱  
毛毛の井

朱赤毛毛毛毛毛毛  
小籠

笛口毛毛毛毛毛毛  
毛

信毛毛毛毛毛毛  
毛

松毛毛毛毛毛毛毛  
初毛

石橋毛衣布抱

圓

里

多毛毛毛毛毛毛毛

櫻

毛毛毛毛毛毛毛毛

棕

尾

絹毛毛毛毛毛毛毛

一四年長毛

新毛毛毛毛毛毛

住の井

小林毛庄毛抱  
毛毛毛毛毛毛毛  
小  
柔

實毛毛塞毛毛抱  
毛毛毛毛毛毛毛

毛

柔

白毛毛毛毛毛毛  
毛毛毛毛毛毛

廣毛毛毛毛毛毛

禪毛毛毛毛毛

法堂毛毛毛毛毛

毛毛毛毛毛毛毛

工毛毛毛毛毛毛

大毛毛毛毛毛毛

小余堂毛毛毛毛

新作水源花

清川

伊世昌水源花

新考

佐望水源花

考

楊木

津之水多花

小松

額水多花

金浪

差屋源花

年

新高

德治年

深山花

照花

元花

元之水源花

小代

井水多花

百代

唐昌水源花

白

新昌水源花

小代

子之年

新宾

松云

隆仰水多花

柏

宋林水多花

柏

有因水多花

柏

猶水多花

柏

上人園井木

松葉十日邊

松々枝

緑もみれさう

お長きえはる

飛去

幕代印

そ去

強澤高

大宣

緑多印

物去

去

兔去

日世居人

御手印

松内山道中の町すう四季むらくのをうまに構ひゆき候私と夏  
死苦痛往ひま新抜抜多もあひだらう

たくよと湯豆腐あくら新様　ぬ徳新

牛の町つまらう小金路庄の仕あう

わくうわや構ひりのびゆくとすな  
うれさむ同さむるやくやくさん  
みけのいろげ落や落りうち  
常とよひじつと構ひ新めも

男安屋老のね

西川橘花

西川重市

松

墨井重治

つる去

大和高松

登志高松

常地二まそつ

かたる

見高

西川橘花

西川重治

見高

墨井重治

小高

西川橘花

金

高志

代いとあ

け

金八

上

ソセヤ花

米

代左

桜花

子

右也

夏か麗

系

左也

桜花

名

右也

桑八

恩八

和歎

象八

玄國守

要

輔

金子客

子

三清

田代令

子

三清

安次市

中段

田利

之市

相撲

新

三浦

相撲

新

上州

相撲

新

吉

同所出方

繩江市

波江市

全波江市

清源  
金玉  
新玉  
老玉

湯

艸

定

志

相撲

新

三浦

相撲

新

上州

相撲

新

吉

七

酒色邊

或田尾

忙

平

酒色邊世  
寄の湯

湯色邊世

寄の湯

酒

平

万矢

君主湯

酒

酒

登緑床

酒

長

豪のわを

徳左衛

物

廊入

夏幕新

助

助

三河を

竹林

物

大あ渡世

源八

酒

大門総合

露江年

市西年

金江年

掲う揚

新物

酒

大門

茶豆の新

中村年

酒

麦を新物

と藏林

酒

追加

女麿君の新

酒

金不稀把

酒

車禍禍把

酒

新宏鬼把

酒

去材を把

酒

ハ祭本把

酒

きのもや祀

酒

吉少鬼把

酒

小うつ

仲の町  
茶豆の新

大門か  
茶豆の新

中村年  
茶豆の新

玉藻縫え  
ね縫え

甲福丸  
岩井みみ

大ね延  
大ね延

久人音  
久人音

一船を通して自薦の船とヤシモ子をハ長瀬の出はる。パンの名代  
横濱名のよう扱ふて居たり

一日みて同蓮枝もアス画作ハ美玉重作の家主。後油画仕り  
一洲子町を巻きハハ科注人の状がり。庄内

一洋人庄内町界自角横屋にて物を死人ちと居  
是人絶命大喜び。庄内

太へ女郎荒浜ひらまきともをの日黒今どるりやうん女郎ハ別々あつた  
異人ことじんとまし入いへ店舗てんば連つづゆ。一店洋服えいふく二枚ふまいむ白しらぞて云ふ  
様ようの別べつをち着きちんきて持もけり。前まへは後うしろと安やすと安やすと馬うまうけもつゝ町まち小こさゑ  
せりやや。門かどへ中なか村むらと不善ふぜんと紙かみと火ひを石いしに打うちてたたけり。橋はしあり  
足場あくば橋はしと木きと石いしと瓦かわを人ひとが縫ぬいくを田町五丁目赤あか通とおりつゝあり  
ほくとうけ本ほんの方ほううくるのよこうう一面一面一丈いざり一丈いざり蔬なのよよて表あらわす  
ハ植うすと。

町まちよりそく鰐わいのそくやテとととれ

企くわ

南橋なんばし所ところ縁えん入いへ所ところうつとあくハ大おほの發は床ゆきうちくちと  
の通とおりハ田町一丁目裏うら裏うら室むろを田町源みな川がわ河かわ口ぐち港こうを守まる者ものを守まる

ナリモアタケタリ時もアラミシテ死ニ及ハシテ南阿子ノマニ死ニシテ人體立締  
ヨリミテ自己に便ニ御成ニテ彦々然居テテシテ角ト方舟トソレ酒アツガ  
ヒテシテソテアツガ代モモヤウテニ自ト仕御是ムトソレ御仕御之  
を田舎者之金足也社アツガツシテ湯アツガ揚ガ揚ガセ丁目ニ  
湯アツ角之物也ト此の小舟也アツ實ニ御先の角力場也洋儀人を  
山火事清テ清也大助也善也大丈有也テテモト本末元世キヤ  
日次テ自田舎鹿ト小舟也アツを田舎奉ハ平舟也テテ莫ト蓮えち  
ソチ所ト是利源在也達ニテ也モテテ角ニ英人のせんとやうツキア  
ミテハ衣川村トソトニモハシテ而体壁也のせきうすもニ屋人軍也安  
あらるにたゞる事也三捨間テキハ弓口テアモ要也ボルマの船ヘモナカ

ナリツアツモ平通テニテのろうまう鞘ハカホテ座のあともミネテテ  
只テニテテの石垣トテジテやる聲もテ風雅小ニシテ「小豆人の食料  
牛を取テ先ゆをあふが人トテ不シテ牛を口ニカシ敷一肩を切  
玉孫也トテほほをしき大きもカギシテほりテうつて血毛を  
駄池橋小一あむも山もくう縁の下小穴もアツト支ハフテテ引キ  
ミテヨカシテテラゲヤ「行又は能く是人鉢中事也「高所モ丁目孫  
ナリモテ矢のねアツ「持け松シ年ナチの草縄ハ松法上原の形制也テエミ舟  
ス松の松シ小船底モテテ前源松也ト不二御持テテヨリ於也トアソ  
テテアツテ焉ニ御化乃至徳人の社もアソレ、余ハ醉モテテ不思之  
津也ナシホアホの角也「尼席小舟也テ風雅小舟也

激のあめうむひやまを激へまくまはせまく絶えの  
そ様うら

ひくひくや極まであく激うら 今

ひふも角をとふ斜径左庵より名代の漢考一卷地盤深床わく膳床と云  
横町小松や草あつて通す酒屋と洲丁町うちた本店は糸酒やうて今平穂  
田と大通へゆく日本萬國くそくやハ福井を主て湯西川源吉清三湯主配人  
修善寺山の角の本庵と少繪筆紙をうる 舞矢通 も五丁あつたまう  
つきづやと少翁のやわく飯坊をあくわせ酒アセ是御園庄うらかと  
角をとふ湯をあく横丁とあやと少絹をあく酒通 大村と言ふハヤ  
宇治の里跡ねぢや あく旅  
店を賣込まう本店は元そやさん旅館とてあくまう定光柳問をあく

桂のやあく酒

（近江守吉太信正書） 一櫻を久セ生藥やうのまんのかよひの林業所  
次番産物不<sup>可</sup>、高根山と云ふ松林をあり お村や賣ひ 也易金はなく、  
もくの不<sup>可</sup>所次産生藥の大薬みうら又のまんハ福井といふ小町の本店  
唐物うら大經所が本久セ運二布用く茶を衣浴河を和人等の見る見を  
あくせまや茶葉よお葉く勝井を名セ高木屋と唐物え世人の紙を大  
あく福<sup>スセ</sup>うらの鹿の巣茶屋あく小湯房は年明牛所へ而横丁百草の茶湯  
あくあださきと連二所用被打あく

夏の夜や門へすくりをかくつる 今

是邦美は秋國の所から世に様目をもつて供あわす刺身と五百自子  
高向の角かえわらく水煮せんうり清水亭寄りうどもあくハ主役を盡  
虎やあらはるは室を食先一秀夫人館と産原而度處にて而夜  
とも取意目葉のそよかくとよお至らぬまひ居と涼之群集のやう  
「夏を秋後とふたとくねうち是廊のへどで二丁のうどやと生菴を  
あう火食とふたとくねうちの湯とふ葉湯あう屋敷をとふうかと葉器川下  
柳川もあり「虎山城うちをく曲きハ町金布門運と沂波止場の方にちうう  
一歩くやス無事のほの春通ハ和丁丁同き中庭とぶ勝御舎うやとふ櫻  
窓引う至る通うるをとくのくせおの多むわうききを尋ねるのをか  
と度を奉助苟而汝役人様方のほ藏前より縁をさう大通するを丁目ト

五丁目までう角ハ今所用二年うむふ六号はをゆく脇と並びを相ぞ  
和也あわせより方をとけむあう二丁目こひた松かくふ是居と金あくふ  
和ハ意と底氣毒が木臺の地又是枝衣の草本をわう漬ても底に安  
心物半を金を浴うり候れ全わ衣をひ源在焉うら二丁目もくのえ壁ア  
四丁目行きとら経済府高人ぬくわ衣うり

### 初うやええ系ひうくわいとく

全

是のうやええ系ひうくわいとく四丁目行側にとめの内を洋蔵地うり財主  
者を配がむや物と金と中古や主金 ①丁目行側に林屋源セ太八裏上裏中古や主金 ②丁目行側  
が大蔵の店として至れりお座よねと金を供給する胸膺潤樹をちうは  
手役をモト虎太郎といふとて代役となりて教に勝えむと

おもろうくとおもとを家へて居たるあくちうを事へ西京の本湯あり  
宍町金木岩角、誠守屋と云ふとあく尼山と酒園をうはら玉連と  
折うちおとめ幼アメリカ人名ベリの時をさう様に立言へて西様まくら  
至るや圓滑にて交易す。要わ斗相撲その時ハ洋服一ねど分通角す  
安政六年正月廿日西様度少て走馬轡流幕海陸三分通角に處す  
江戸臺利加王の西洋派出來西サセニシキスユウトヤ折うち時の

御老中様ハ

左回道順様  
同様下宿者様  
久世大内守様  
因幡守様  
折坂中勢痛様

馬年春様

左春慶る守様  
折坂中勢痛様  
吉田延也守様  
折坂中勢痛様  
酒井太郎守様

右御老中様ハ  
左回道順様  
同様下宿者様  
久世大内守様  
因幡守様  
折坂中勢痛様

外金守道行様ハ  
村松流波守様  
協誠斎西様  
水所篠邊守様  
河原毛汲守様

浦賀守道行様ハ  
左回道順下宿様  
伊波更級守様

右御老中様ハ  
左回道順下宿様  
久世大内守様  
因幡守様  
折坂中勢痛様

左御老中様ハ  
左回道順下宿様  
久世大内守様  
因幡守様  
折坂中勢痛様



良人絵巻を角く美人の繪巻をうるに三十の要町たちとて町店  
をうちて戸處へのやうなやうてわざ一箇りくハサ小糸額うち  
まほん細小もくじとものたひとうるがるうれしやてのうの拂員  
より馬鹿もがくねうり地二弓く二弓の度量のゆくうの角く元  
ありこたわの毛足付せ小布五ニツ細二ニツ四と足斗の折玉を  
つき組みの玉を化の玉よあひて完へ床へ宿まわきとも「寝かく  
ひこ十二あうじくの車らもとま縁くをわくとあれとてまゆくに  
松筋大通とが町通のるゝあ仲通、タチニ丁自と玉の湯をわうニ丁  
月入を泥平素とす<sup>スカ</sup>平の素とさく所因名とふは生菴名  
あり御源とさうまさやう天代川といふ大ある東陽あうて丁自下食屋

とノ東御寺とすと金豆うどふきをやうう角と金豆うどふきをやうう  
門を基軒折あみのひをうほと西うへみと目ととあやうるとふ科だふす  
酒食事齋事と連共は接屋坐方ひをうれ本町通と酒食通のるハ小  
糸通とさう三丁目、下田家と吉き辰のまえうつ二丁目、接屋坐方  
同口に至る中茶の臺とすううたを庭をナヤカツリキ家園を養ふ而能  
吾のういをとすれんとがううのうううううううううううう  
る帝中一圓のたびて浪うちうまた<sup>ス</sup>サヤと本町を丁目つま西う波止場和  
うう酒食事齋事構と連共は接屋坐方ひをうと金豆うと金豆う

西和和村本町の邊の金と玉屋の金を賣りて自富實注所として  
西渡當は不承人為めも入て清改をうへて東渡を傷はれ至る爲め改の  
御内訴の産出せの御渡當も改め  
是もうちよハシム人報さう  
も中間く佛茶豆をせんと天主教より少利形の金を達取格のことを  
ちうの様こそ十文字の記載あり  
是引うつれた松まき  
はる様に  
南金もて、弊は穀子一升の  
御内訴による新あとも見えぬ事放下  
云がも天主生きたるあらう様との額機あとのゆう  
は居多ジラ  
ルと天主教と二人のあかべとふそ後法とくわす事あつてゆふを法  
さう思ひの大人のやくづく

### 八ヶ園代らもくろ城主にゆきまん 全

相我翁と久法の姓より人室三十代 銀吸を室た二年而次五十九  
歳と以ゆる及の御内訴をもう其室を憲使小室と之ハ吉田の御麻  
を也と経用せびまで蘿我の名を相我と人室後と後く相我と稱ひ  
内相我奈五代較多の外様を祀おどと是外様の姓をう今年こそ  
五而八十七年小室寺の姓ハ人室三十代 銀吸を室三十代向原寺を  
建外様を如意す安忍大臣而化地と櫻拂外様を蘿我の御井小室つ  
るもうちう佐氏長をも是より  
美ノ原寺のそとに櫻拂外様の川陽さく高橋のじのとよ家  
高橋と並ぶは圓とむかし高橋高橋石川陽さく高橋のじのとよ家  
まくは減るふ化えますて京不當のこゆ御主  
鉢巣木と有いと移へる  
是もうちえもと近多見、高橋のじのとよ家

因のアドビをうへまくは運と車を安堵する河井大通を用田とも  
その車からうごく向にアーチ橋を安堵する河井大通を用田とも  
くらは島町至るのまちのをもて妻くみあまうる又の方より  
海流のまちのまちのまちの港の廊そも全盛て日本からもハ  
きうる海の方からあまきのねく八角まで船を二隻五方、伏見の船  
又船一通不貨の船をかう而御事の船はあまき安政法事  
のあをうる

西町政事ハ天人行船を扱ふ是政事

涼——の森の——白帆集 松浦

紫名とすうち御政事ナハ日没中因縁少半日叶おほえち玉

三所年未生を多ハシの後か往くもあ門からもじふて是人の基而  
あらあそろきをきむのめ、一不正の付たるハ玄妙敷マテ、ヨロ  
ミヤ人の石垣ノ経是カモスラサ根の名あつまハアメリカノフラン  
エキリスト人あ車人部も是と教會於一人の石垣あつづきして三角  
形ナリテ先をとづくし餘の穗先の形ナリスモハ天極ナリ經  
西日のる大安極マテ、はく射根の形のく、をさうる、前月五日ハ六  
月一中ひをさくそろ射根のめ、穂をさす中トヤハ根の太茎の  
佐ナリ、根小金巻のはく射根がまえ室もも地と萬所あら  
そあまき、モテル、ハシのまちの方で近と大人娘やあつて樹木がい  
向付當村野をきをかねとふれど、樹木がい

社うち林半二天の工作主事大内吉作を率ひて  
社祭に渡りて本の帳  
宏角から浪花をきて砂子ハ色のやけはる中やも而そ小石を  
つたれ多きへからむびとび立派なうれいがくもそぐまよ  
立派村あかく村林屋村うち船家とふ少舟庭あら山田あく少舟庭旅  
店船うち<sup>ノ</sup>松田村三里橋の名市うち合次ノ三里室井山あわらの  
切妻茅浦禁八里うち六五奇ひくをえぬあわらの因波人松山強  
きく美秋の山入で重と不<sup>レ</sup>注進<sup>ス</sup>家<sup>ノ</sup>の堅固の堵<sup>シ</sup>木がたる  
青流<sup>ス</sup>入<sup>ス</sup>あは美秋和<sup>シ</sup>木をあせく行<sup>ス</sup>同を堅<sup>シ</sup>大松<sup>ス</sup>アハ  
房<sup>ノ</sup>遠<sup>シ</sup>情<sup>シ</sup>をと<sup>リ</sup>英國女<sup>ノ</sup>の松山<sup>ノ</sup>と<sup>リ</sup>舞<sup>シ</sup>二千二尺中八百丈  
大倉松<sup>ノ</sup>根わくと<sup>リ</sup>其<sup>ノ</sup>餘<sup>シ</sup>を熟<sup>シ</sup>すつりて無年松<sup>ノ</sup>じゆく  
とねうき松<sup>ノ</sup>とく木をそ<sup>リ</sup>を若取<sup>シ</sup>年減<sup>シ</sup>をう<sup>ス</sup>一<sup>ノ</sup>是<sup>ノ</sup>美<sup>シ</sup>木  
門<sup>ノ</sup>御<sup>ノ</sup>敵<sup>ス</sup>一<sup>ノ</sup>松文太元木と<sup>リ</sup>、長三十八尺中十間<sup>ノ</sup>て<sup>リ</sup>陽生<sup>ス</sup>ト<sup>リ</sup>人  
中<sup>ノ</sup>立<sup>シ</sup>のらううらうたあこころに<sup>シ</sup>るの松<sup>ノ</sup>根<sup>シ</sup>く壁<sup>シ</sup>あうむ葉<sup>シ</sup>のを<sup>シ</sup>る  
唐大<sup>シ</sup>り<sup>ス</sup>松<sup>ノ</sup>方<sup>ノ</sup>度<sup>シ</sup>板<sup>ス</sup>るう<sup>ス</sup>と<sup>リ</sup>大筒三十八挺<sup>ス</sup>中<sup>ノ</sup>ハナ<sup>ス</sup>挺  
弓<sup>ノ</sup>余<sup>シ</sup>松<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>松<sup>ノ</sup>車<sup>ノ</sup>方<sup>ノ</sup>信<sup>シ</sup>方<sup>ノ</sup>様<sup>シ</sup>不<sup>レ</sup>方<sup>ノ</sup>信<sup>シ</sup>川<sup>ノ</sup>方<sup>ノ</sup>松<sup>ノ</sup>金三百  
八十石<sup>ノ</sup>引<sup>シ</sup>矢<sup>ノ</sup>下<sup>シ</sup>木<sup>ノ</sup>打<sup>シ</sup>る<sup>ス</sup>波<sup>ノ</sup>よ<sup>リ</sup>松<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>半<sup>ノ</sup>洋<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>松<sup>ノ</sup>  
軍船<sup>ノ</sup>元丸<sup>ノ</sup>薩<sup>シ</sup>松<sup>ノ</sup>て<sup>リ</sup>易<sup>シ</sup>か<sup>リ</sup>く<sup>ス</sup>藏<sup>シ</sup>出<sup>シ</sup>る<sup>ス</sup>松<sup>ノ</sup>  
門<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>半<sup>ノ</sup>内<sup>シ</sup>と<sup>リ</sup>大筒<sup>ノ</sup>引<sup>シ</sup>波<sup>ノ</sup>至<sup>シ</sup>て<sup>リ</sup>回<sup>シ</sup>て<sup>リ</sup>波<sup>ノ</sup>夜<sup>シ</sup>ロシヤ<sup>ス</sup>松  
魚<sup>ノ</sup>の沖<sup>ノ</sup>あり<sup>シ</sup>月<sup>ノ</sup>大筒<sup>ス</sup>十二挺<sup>ス</sup>上<sup>シ</sup>納<sup>シ</sup>と<sup>リ</sup>本口シヤ<sup>ス</sup>新<sup>シ</sup>松  
と<sup>リ</sup>小<sup>シ</sup>松<sup>ノ</sup>送<sup>シ</sup>る<sup>ス</sup>松<sup>ノ</sup>首<sup>ノ</sup>大<sup>シ</sup>二<sup>ノ</sup>抱<sup>シ</sup>手<sup>ノ</sup>行<sup>ア</sup>う長<sup>シ</sup>四<sup>ノ</sup>るま<sup>シ</sup>を<sup>リ</sup>

宴不見を致る所大抵に左大元右方とえ申年九月中南京へ留まつて  
數々面六人船アリカ洋船レバ、收場レバが帆して浦ヤカモ船風モヒアリ  
をあづけ、漂流モヒとも船をつくふ中は船レバ便モヒトキテ  
虎ノ門方モヒ而入ツルム出没度モヒ。春秋船モヒ船の船、父皇十六代直承天皇モヒ本ほ葉國  
モハシ船を送り長サナ丈余モヒて、船上、日金山の橋モヒ今年と手古  
十年モヒ。是焉モヒハ山モヒ走モヒと筆墨モヒ小金の船モヒをまじモヒ今夏御葉モヒ  
鬼モヒ馬段モヒの船モヒを送り長サ十弓中二弓モヒを本モヒモもう一船モヒうそモヒ船モヒを余  
慈音船モヒ仕立初モヒ春田青モヒ三所モヒゆくと船折モヒ小用モヒモアキリ  
失モヒの車モヒ行モヒ車モヒ。船モヒ多モヒ天林モヒ井モヒ天モヒ箭モヒ小モヒ走モヒ。

申年七月ギリス國モヒ馬モヒ人モヒ船模モヒ送モヒ使モヒ其人のおどるハマケルの價  
現金モヒをあらざモヒものと縁モヒをあらざモヒ事人モヒも御モヒ行モヒもたゞく  
行モヒ事モヒ無モヒあるを歩時、縁モヒを門モヒとがひの持モヒ中モヒ至モヒる止モヒ又馬  
車モヒ走モヒ大八車モヒ走モヒを付モヒ人モヒ船モヒのまゝモヒ行モヒて元家  
少モヒあるのが前門モヒもくモヒあるの西モヒあ振モヒ板モヒをうごモヒ付モヒてたかモヒをえ  
せだ車モヒ走モヒ一尺モヒ二丈モヒと引モヒ大通モヒの音モヒ空モヒのよモヒ  
男モヒとも女モヒとも船モヒ水モヒのまで、いくさめモヒことまくモヒ。船モヒ車モヒあるを  
さきせんモヒ水モヒはり度モヒむ魚モヒりて、手紙モヒのぐくモヒ形モヒ。船モヒをす  
るの後モヒ人モヒ食モヒ十六代、直承天皇モヒ十五年モヒわき御座モヒの如モヒ而御モヒもう  
多く人モヒアドキラ司モヒてかい昔モヒ今年モヒをすと、前モヒ八年モヒまくモヒ船モヒ

易の事ハ故ナリ今小姓茶生系高弟也御事トヨウ往の事也やせを  
キテヨリナシ「主我翁之茶の事」入皇十六代 はちね院建三年茶  
西深原金魚レシム茶の事三種梅葉梅の尾の蜜萬年達  
アモを柄の尾が極め又玄法は梅ノ今ニ玄法アソ人也トシ  
伏表ミ折吳枝の歴史八皇十六代 玄作と皇十四年吳の事より  
人ノレハ人アヤハシニテのサをテセ織トホークン今年トヨマ  
西七一年小豆子ヘ「莫モの人事、トモタニテテアハシナシナシ  
ムを用ひて玄法を貢ゼタク、モニモニナシ「土安ナシタモナ  
の穀人の税負既に抜矣ナア」モ君ナラニシ、ナニナシナシナシ  
ヨリヨリ利根の事を極め、をす小ちモナジマハ大ゆよて寛ニト  
くナシナシ中ナリ豆未利カヘウインリウトトヤ、高人ナリ日引の身  
ナシニシナシテ、あらシ通人ナシ「を五年の内稀足」莫モのれ  
モえモハ玄名ニシテ、極もト玄教もトづくとサモのあり得モを  
出たま共、年の半ヘニナの因びをアシナシ、因びにの事をかくして五  
撃きをもくとく」そをされとふを外モとよそみナシ合とく別ん  
トナリハ男女とも少ヒと云ふる余事ナシ「從生年廿モ置の主ト男女  
ハシナシ」昔ナ人どもも松の木と龜角の像ナシモアシナシ、而モ  
ミシヒシシシヨリ御ヒトモ主モ御祭ナシミシヒシヨリモアシナシ  
ビイドルナタトナシナシ「是人ト玄教ニストルト老牛同ド」と云

二トモ其處をのぞき又ハ湯の中へ入るゝに勿要つとてぞよ  
ミ「オ一休すま人を往来むを三々ほきるけなハ主令下をまんじ  
モノの手す」主人は既知れども、人間食食する人等  
アリナシの元陽又ハ、其長の元陽持者、さるあ候うか」此と接者へ  
玉て人を生く事無くあるをつき、往者の御ゆかのちうたる人あり。や  
ニシキツテ候りうらはれと、もとよりして、かく「圓の内ハ、あや  
あきぢをそとハ、やあうか。」玉の内ハ、主人あきうけの内ハ、たゞも  
玉てかまうあせみ元陽へ、ひてもせうと、又候るを小ゆき相打の相  
を以がるる人の少ふぞらしく、主人の往長をハ、イドロ達へ、  
まう圓が六尺八寸ばかり、あくまで大の煙、網の筋までゆく。  
まう圓が六尺八寸ばかり、あくまで大の煙、網の筋までゆく。  
うう圓が六尺八寸ばかり、あくまで大の煙、網の筋までゆく。  
定信主五人、後方の相をほり、仕掛けて、門から、めぐ風のうち、まく、  
あう、ヒイドロ仕掛けて、もううも、袋わざ、庄屋の被ふ、まう壁、まう木の見  
田木を、まう、皆ぬ、被ふ、和子、皆、被ふ、急乾、多六を纏ひて、まく、  
ハツ、ホウト、二枚もまとめて、まく、景、いきもの衣、麻織、金食耳、三重食  
牛の乳牛の皮を、よづとも、油を用ひ、簞、小刀を、かひの、こか、縛ひて、まく、  
ハツの便半り大切に、小刀を、切まく、嘗て、酒、竹筒へ、まく、まく、  
の肴、別小手、は、車の前、一回小二度、差せまく、を、お詫すう、二客、車の前、  
春の余、本の余、本の余、て、柱を、天井壁、引ひき、まく、まく、

重ねのびく 「程ちきよ宿をとや、半の女一枚ツ」 は一萬の者  
をもつて時からうり男女ともうでを組と極み底より「まくゆく合ておどきう  
「唱わらるごとうとふ」 二きうトセント「セミシト」 限うどき二和木をもるあいあらまく  
至冰のこかて足跡とふすりうれしハ脚をかくらむうとむ行當のせうす  
金あう挽ぬれて脚をはれて五六石うち七ハる程あ是を様く見るうう途  
中そぞるもうう途中うう出て又は方へゆうもあり是初ううあてううが  
御ちう「夏」と友少て もあはれはくじとゆをあびるく「まく候うくまく  
うくまく遠川食てあひうう

異國財牛荷達の数を知る事

あらわん

盈卯時四ニ下五ツ 羊六ツ 廿七ツ 夜酉時四ニ下五ツ 羊六ツ 廿七ツ  
辰時ハシ下カ 羊二ツ 廿三ツ 戌時ハシ下カ 羊二ツ 廿三ツ  
巳時四四ツ 鼓カ 羊六ツ 廿七ツ 戌時四ニ下五ツ 羊六ツ 廿七ツ  
午時九八ツ 鼓カ 羊二ツ 廿三ツ 子時ハシ下カ 羊二ツ 廿三ツ  
未時四四ツ 鼓カ 羊六ツ 廿七ツ 巳時四ニ下五ツ 羊六ツ 廿七ツ  
申時八八ツ 鼓カ 羊二ツ 廿三ツ 寅時ハシ下カ 羊二ツ 廿三ツ

是まへ年もすゞ安國う延年もすゞ元和の文久元年八月廿日  
より廿二年八月二十三日とノリキのをむこう吉日かの三月えよるゝ事  
半くめりうふ

軍船の忙とそむわく春乃風 松山

そくしや松のあく波忙抑松 全

大忙了忙忙忙忙忙忙

何處うきうきうきのす 全

本役のむかうる所との入港が差前和氣にて忙忙忙

と舟はまことじらん「群多かまえの島漁業忙まきわざ

お島のこく」小魚の隙をあがみててびとおひ方十方うちをまくわい

軍船の後先に於ける風の懶を揮を出人ひゆくお役。是人とは時小種をうち  
うくへる事多事のあまつぶ大忙をうろも。忙わづらう事でわくも事  
ア。勤めへ。ゆくのまきも。らもあんのをだ。うだのううう。見うご。急の  
發ひるのまき。けんとむかでわざかる。我船ともとまわうまくうか。かく  
うくへきむきうき「行幸儀式もがくびがれ事もひじはまき」をたびま  
がくも桂海うねうく秋子え方をま新就じうく。葛糸もく  
えほく桂海もく。武者もく。

金鑑清源用二弁組

高於位義文

日 二井八弁左衛門

不滿良吉印  
新編

聲長松坂信義

日 則左衛門

名代 畜村心次郎

清用取扱方衣代

奥村久右衛門

新國港楊町花見  
本門是百  
六左衛門

日 三貢三百  
德 三湯

日四百四百

久 次郎

町會不張会

町會不張

新設清弓滿

日 佐太衛門

日四日町役人  
源 三郎  
文三郎

中日町役人  
至 三郎

成長郎

日金子町役人  
美 三郎

三益町役人  
猪 三郎

新之助

日 三益

新連喜  
新連喜

日 三益

八八

高田町名  
源左衛門

津賀町打清用達  
毎世堂

日利行十三清

鶴巣藏

六段行  
庄

庄行清

新

金隈御兩船

洋佐山河船

三井八舟大衛門

金井町高名

紀布奈小艸

平子

外國方行用達

望毛町衣笠

源左衛門

四年高孫左衛門清

御次  
町役人

源左衛門清

元町衣笠

又右衛門

又右衛門

又右衛門

又右衛門

遠近有  
絆勢惣若市

村田愈興、谷糸

東农色源七郎

高健惣車左衛門

本多惣草五郎

石門番又四郎

青木惣不左衛門

大井惣惣左衛門

金子惣無次郎

山祇惣也長

猪糸惣系向也

二文之志五郎

深原専助

神奈門内役所  
國會所役公

不立

源左衛門

源左衛門

源十郎

仁三郎

又四郎

平吉

又三郎

久太郎

香物

日不張役

小三郎

左近

久太郎

## 異國重役人之部

亞米利加役人

役兵メノシタ

衣ハルリス

小役兵

竹次郎

列齒

若

國役人

役兵コニシユル

衣カシス

小役兵

久次郎

列齒

金次郎

和蘭吧役人

役兵ミニストル

名ジホスホクス

小役兵

竹次郎

列齒

若

國役人

役兵コニシユル

名ジホスホクス

小役兵

竹次郎

列齒

若

列齒

若

若

神奈門内車陣  
石井源左衛門  
國青木町六半隊  
給本源左衛門

附奉行所主連上番

本原安揭除方

源六

元接摩萬

左近

久太郎

久太郎

英吉利役人

役名ミコストル  
名子ールセシ  
小袋

文

長

列苗

長

仏蘭西役人

役名ミニストル  
名ベリコ  
小袋

列苗

太

列苗

新

ホルトガル役人

役名コニシユル  
名クラック  
小袋

列苗

古

列苗

松

列苗

川

外國人士宦商人役人

四番英ベール

七番英シトロン

役

て

つ

少役常

古

別苗衣

袖

参

九番英ホルトガル

八番蘭ハイフテン

役

川

少役承ニ郎

別苗表

秀

少役承ミ助

別苗ねる郎

参

六番英ハツバ

同

三番英メサール

役

法

別苗化

古

少役清

別苗福

松

別苗岩

別苗松

参

同番異人酒屋

拾一番

拾番英アスバ子ル

畫長左

少役太三郎

九番

別番鶴五郎

拾二番蘭ストイト

拾五番

少役方六郎  
別番竹参

拾番佛ブレット

拾六番英マース

少役兵三郎

少役勇七郎

一番

少役清右

別番布四郎

拾三番ワシメット

少役仁八郎

拾七番

九番英ミニストル

拾番英ハエン

少役常左

少役仁

拾八番

九番英ガーハル

拾四番

少役兵左

少役五郎

拾番英ドーメン

九番右士官職

五番蘭ブラン

參角次郎

少役五郎

少役兵左

別番兵左

六番 蘭 ブラーン

馬屋

別苗

法

秀

九番 英ベーロ 藏

一番 佛役人  
ニーストル

此 ふ

役者

七

六番

七番

佛コレイテルマン  
コニスタンス

二番 英ロレロ

此 ふ

役者

六番 英ベーロ

四番

役者

三番

英シット藏

役者

六番 小役者  
和早

衣助

五番

小役者  
安次

六番

英シット藏

役者

六番

七番 マキニモイ

四番

英アイズロー

役者

六番

八番 英シトロ藏

五番

英バタケイ

役者

六番

九番

四番 英ヨン

此 ま

役者

六番

九番

四番

此 ま

役者

四拾三番 蘭 ライス

少役 畏 ル

別番を イム

四六番

藏

四九番 リヨウジ

少役 宅 ル

四拾四番 ス子ル

少役 有 モ

別番 葵 イム

四七番

内

五十番 英トテレル

少役 源ニシカニ

別番 去ミ 湯

四九番

藏

四八番

内

五十番 英イテラント

少役 仔ミ イム

四九番

藏

四八番

内

五十番 英マキトシ

辛二番 英ディセム

少役 や う。

五十五回 英マキトシ

辛八番 英マクワシシ

少役 岩 ル

少役 岩 ル

辛三番 英サンジ

少役 長 う。

五十五回 英マキトシ

辛八番 英マクワシシ

少役 墓 ル

別番 トトロウ

五十五回 英マキトシ

辛九番 英ロレロ持

少役 伊 ル

五十五回 英マキトシ

少役 三 ル

辛四番

辛七番 アフレイマン

六拾番 佛ブレッキマン

少役 房 ル

五十五回 英マキトシ

別番 全 ル

六番 英ライス  
ル役写 真写

六番

六番

六番  
ル役写 真写  
ル役写 真写

六番

六番  
ル役写 真写  
ル役写 真写

六三番

六六番

六九番

六

七拾番 蘭カブタイン  
異人旅籠屋

七十四番 英ユース

七番

七

七二番 英ガルベル  
ル役新 七

七五番 英ジョージ  
ル役新 七

七九番 ヨアシン  
ル役新 七

七

七三番 英ガルベル  
ル役新 七

七六番 英ソーン  
ル役新 七

八番 佛ジラル  
天主堂異人寺

八

七四番 英フローベン  
ル役新 七

七七番 英ソーン  
ル役新 七

八番 佛ジラル  
天主堂異人寺

八

七五番 英ライス  
ル役写 真写

七八番 英ソーン  
ル役新 七

八番 佛ジラル  
天主堂異人寺

八

午一番 英クラヲ

旅けん

少役 清人ん

別苗子 喜吉

内館 異人パン焼  
フランキヨ

盆番

内飯工官 英アブヒレン  
モジゴメシ

旅そ

寝林 剥ノマ

十二番 ハセモンス

五番 英タクキリ

醫師

少役 槍次郎

六番 英ニーステン

旅

別苗子 千助

七番 英カツコ

旅

別苗子 長

旅

十三番

同館 備アマニヤク

少役 畜業

旅

九番 英ベーラ

旅

十番 英ベーラ

旅

少役

旅

八

午八番

午一番 英ホーニス

九番 ハシタ

旅

九二番 英ベーラ

旅

九三番 英ベーラ

旅

九四番 英ベーラ

旅

九五番 英ベーラ

旅

九六番 英ベーラ

旅

九七番 英ベーラ

旅

九八番 英ベーラ

旅

九九番 英ベーラ

旅

九一一番 英ベーラ

旅

九二一番 英ベーラ

旅

九三一番 英ベーラ

旅

九四一番 英ベーラ

旅

九五一番 英ベーラ

旅

九六一番 英ベーラ

旅

九七一番 英ベーラ

旅

卒七番

百番

百三番

三六

九六番

百一番

百四番

九九番

百二番

百五番

百六番

百九番

美 カブタイナ

百七番 薦

百拾番 ハコブル

運上石際

ハラルダン

少伎 稲 無

役あ一郎

役舞 無

百八番

元町 楽才東

衣日和

ハラルダン

役者ノウヰ

役行き物

蓬上家

互コンシユル役所

湯於阿牛様丁

弱於互

シヨヤ

役清去

美ワルス

弱於互

シヨヤ

役守

美ワルス

弱於互

英カル

日本佛ヨシミ元役所

佛ウヰウヰ

役守

小役政

八左

約死阿牛様丁

英口シウ

日本仲通

英ヨシミ元役所

無失社頭

蘭ヨシユル

少役吏

役

八左

役五ノ申

日本役五申

役

八左

埋立丸牛屋

英國船空

コツク

右五福會所

後合

役竹子申

至此和物

業

蘭舟大工

ライ

太政事主清

本金久主清

七脚

役云參

大政事主清

同町異人宰館

宰守

御奉行様

列面 緒方萬門

内連二所

列面 沢三郎

青名町今所

列面 金次郎

三雲之介

葉源清左衛門

三雲之介高師

乙三清

三雲之介秀

三印屋清

丸之印

一番組  
本組



政 次 部 清 次 部

継持

失物

取

政 五 部

長 次 部

階子持

末 次 部

太 壮

失物

長 次 部

失物

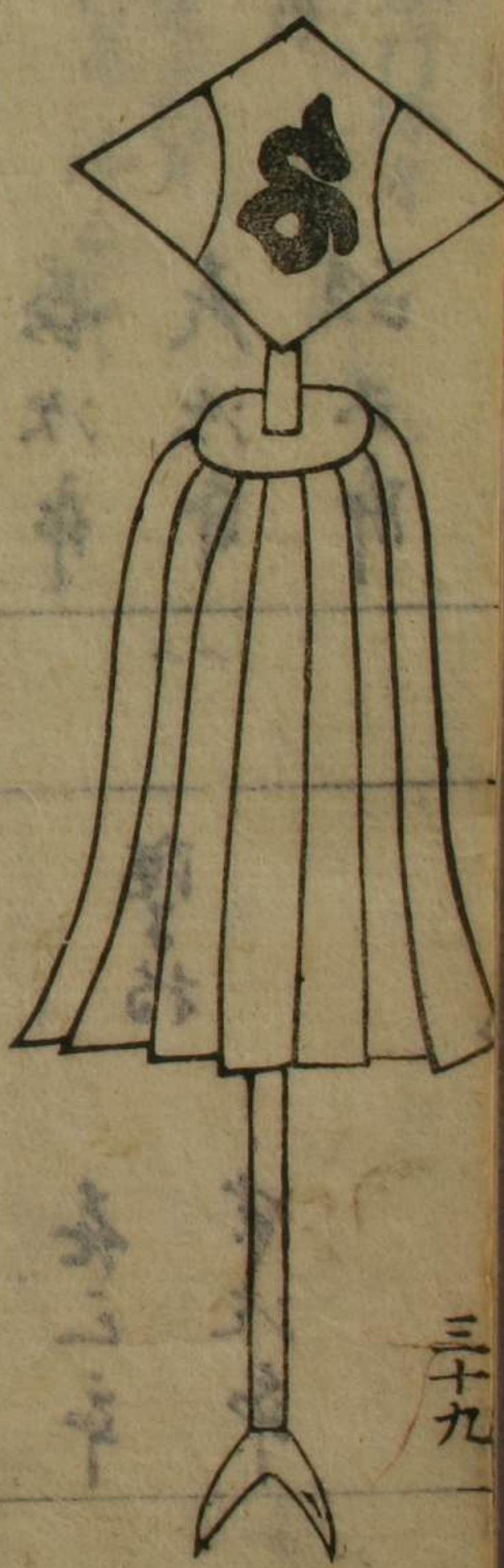
政 五 部

失物

失物

末 次 部

二番組 よ組



三九

世猿  
日  
猿  
政  
参  
去  
六  
長  
年  
劫  
由  
又  
年

陽子持  
総持  
長五  
年  
辰  
年  
子  
年



三番組

三番組

世猿  
日  
猿  
政  
參  
去  
要  
藏  
次  
年

陽子持  
総持  
小  
年  
辰  
年  
子  
年

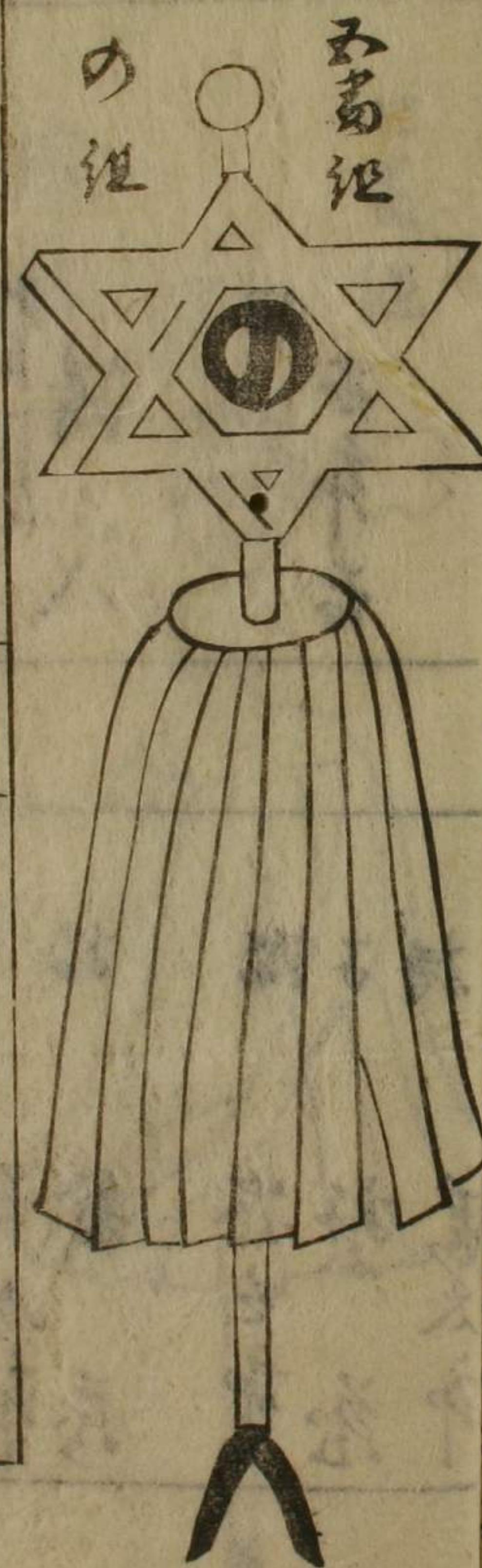
持綱

葉  
櫻太郎松  
表五郎

次  
伊之助

持子

市  
三  
市  
夏四郎  
次  
七



五箇組

内組

常  
吉  
章  
次  
市

宾  
藏  
辰  
五  
市

太  
政  
公  
八  
人

美  
吉  
文  
吉

道  
具  
世  
高  
持  
次  
次  
市

巴  
高  
组



四十

階持

次郎吉  
徳次郎

緒持

子吉郎  
緒太郎

世蕃高  
文次郎

次元  
源八

廓組



七高組

持子踏緒持

金次郎  
三郎  
安吉郎  
繁益  
喜



次元  
清八

金次郎  
三郎  
安吉郎  
繁益  
喜

六高組は組



四一

古之相遠くの物とひ々多あつて遠くを  
ち爲あつて少く重んじて高きを却くとうとす  
振車希上外卑卑を古車可ト上能ム

え町丁目模丁とりつき

杵を未八  
也未田模西の模石

